

平成13年 / 2001
春3号



敦賀市IT講習会(2月19日~3月2日 敦賀短期大学)

contents

家庭や地域

- 身近なところから 街づくりができる・・・ 2~5
- 男女共同参画社会ってなんなの?・・・ 6~9
- どう感じていますか?環境のこと!・・・10~13
- 街角スケッチ・・・14~15
- おしらせほか・・・15~22

No. 710

平成13年3月13日発行

家庭や地域

身近なところから 街づくりができる

先月、市勢要覧の特別企画「まちづくり21 イド・パタミーン・ティン」のため、市内の若者5人と河瀬市長が日ごろ感じていることや自分たちができることなど、街づくり談義を繰り広げました。

若者があふれ活気ある街

森本さん 夏、海で自分たちが企画できるもの（イベントなど）があれば、その中で、行政や民間企業との関わりを持ちながら、若者が集まる足がかりを作っていけると思っています。

河瀬市長 昨年行ったウエイクボードなどは、大勢の人が集まるから、競技する側も観る側も楽しいのだと思いますね。そういう場をこれからも作っていかねばと感じます。それと成功させるには、みんなの海に対するモラルも求められるでしょう。

中川さん ライブハウスなどにメジャーな人やグループを呼べると思っていますが、敦賀市の人口や

参加者 河瀬市長、岡本聡子、河野浪恵、中川栄太、森本玲央、吉川美穂

アクセスなどを考えるとやはり難しいでしょうね。

森本さん 確かに難しいでしょうね。でも、昨年はある企業がバンドを呼んでライブを開催するなど企業の地域貢献もすくありがたいですよ。

河瀬市長 メジャーなものだと、敦賀くらいではなかなかペイできないから、呼びづらいですね。でも、そう言った企業の方々のご協力はとてもうれしいですね。
河野さん 市外から来ている友達などに聞くと、逆に「敦賀には何も無いから勉強しやすい。」と言われたことがありますよ。（笑）

はよく公園などに遊びに行きますよ。そんなところの情報など、ちょっとした情報も流しては。
河瀬市長 そうですね。市としても、行政チャネルや広報紙などを使得ってPRは結構やってるんですけどね。確かにちょっとした情報というところまでは、して

ないかな。

河野さん 情報と一口に言っても、それぞれ見る層があるんじゃないですかね。「市役所からの情報は硬い！」と思われがちなのは、若者向け情報の発信を願います。

福祉と医療、女性の自立

中川さん 今のお年寄りには、戦争などいろんな経験をしてきています。裕福に育った自分たちが年寄りになったら、わがままな年寄りになるんじゃないだろうかと？と思うことがあります。そんな意味でも自分たちが年寄りになったとき対応できる福祉を今から考えていく必要があるんじゃないでしょうか。

河瀬市長 そうです。言葉は悪いが、お年寄りの邪魔者扱いは絶対にだめ。若者を含めみんなが楽しい老後を真剣に考えていかなければいけないんです。

河野さん 敦賀に戻ってこない若者もいるけど、私達のように敦賀で就職したり、大学卒業後戻っ

て来たりする若者もかなりいます。そのサポート体制をしっかりと考えていかなければいけないと思います。

河瀬市長 そうですね。確かにみんなの老後も大切ですが、まずは、就職できる環境、そのために現在産業団地の建設を進めています。きちとした企業を誘致して、若者の働く場所づくりを考えています。

岡本さん 私は年老いて一人暮らしは嫌です。そのためにも昔ながらの近所の人たちと仲良く暮らしていける、そんな街づくりを望んでいます。

河瀬市長 いいですね。今は地域で敬老大会などお年寄りとの交流事業が年に1、2度は行われていますが、後は民生委員さんや福祉委員さんたちに頼っている

岡本さん 私も学ぶ環境としては、決して悪くないと思います。4年制の大学があればどうでしょう？ いろんな所から若者が集まり、敦賀が活気付くのではないのでしょうか？

河瀬市長 気持ちはすく分かります。でも、現実的（経済的）には今の短大を何とか運営していくのが精一杯だと思っています。魅力ある学科の新設と言う考え方もあるとは思いますが、申請しても全国的に調整されるのでなかなか思い通りにはならないのが実情です。今年、授業料を地元の学生に限り半額にしましたが受験者はさほど増えていません。

吉川さん 新しく出来た施設や利用できる所などのPRをさらに充実してみようでしょうか？ 私

感があります。子どもたちとお年寄りがいろんなことを教えあったりして楽しくふれあえるスペース（環境）も考えていきたいですね。

中川さん 病院もお風呂やベッド、玄関などもっと人にやさしい造りにしてはどうかでしょうか。

河野さん 細かい話ですが、例えば病室をもっと明るくするとか、細かい所への配慮。病気の人も健康な人も、人として暮らしやすい環境は同じだと思います。

河瀬市長 建て直しとはいきませんが、順次直していきますよ。ハード面においても、ソフト面においても、本人も家族も安心して過ごせる病院を目指したいですね。



なかがわえいた
中川栄太さん（看護専門学校生）



こうのなみえ
河野浪恵さん（看護専門学校生）



河瀬一治市長



おかもとさとこ
岡本聡子さん（会社員）

吉川さん 少子化が進み、自分たちが年老いたときがすごく不安なんです。

河瀬市長 男女共同参画という社会の流れの中で、共働きの人が増えており、不況の波にもあられ少子化が進んで高齢化社会に拍車をかけています。板ばさみ状態の中で、みんな支え合う社会の形が崩れつつあります。これはとても難しい問題です。

岡本さん 私は、結婚して子どもが来て、自分のやりたい仕事を続けられる社会であって欲しいと思います。勿論個人や夫婦の努力・協力も必要だけど、「女性は子どもの面倒を見て家庭に」という慣例的な考え方が辛く、社会の理解も必要だと感じています。

街づくりイベント

森本さん 行政だけに任せるんじゃなく、地域全体が協力し、若者もどんどん参加して継続していきけるものを見たい。作りたい。しかし、資金づくりというところまでは、まだまだ難しい段階だと思います。

河瀬市長 現在は、みんなで運営し

河瀬市長 確かに子どもが3、4人になるとかなりの負担になるでしょう。しかし、結婚して子どもを産んでという自然な形の中で、夫婦・家族で協力し合いながら女性も社会参加し自立していくことが望ましいと思うし、がんばって欲しいと思います。そんな女性を支援していきたい。

中川さん 時代の流れとともに、家族や社会から求められていくことが変化していくでしょう。それに合わせて、行政もサポートシステムを変えていく必要があるのではないのでしょうか。

河瀬市長 確かに現在の早い社会変化の流れの中で困惑しているところもあります。女性の自立についても、一気には無理としても、みんなのがんばりとともに徐々に認知され、変えていけるでしょう。

ていける組織づくり、そして、意識を高めてもらうために資金は市、運営はみんな。と言う形で行っています。将来的には、資金面も含め全て市民のみならず一つのイベントを成功させることが望みです。例えば、イベントを盛り上げていく一つの



もりもとれお
森本玲央さん（自営業）

手段として、花火大会のとき、子どもの誕生や結婚を記念して、個人の花火を自己負担で打ち上げ、みんなに見てもらおう、こんなことはどうでしょう。もちろん応援は続けていきますよ。

吉川さん 私は楽しければ自然と行きたくなるし、参加します。歩行者天国が定期的に行われて、そこで楽しいスペースが生まれれば、いいなあと思ってるんですが。

河瀬市長 商店街の人たちと協力して市道を開放し、ストリートライブの場所として提供するなど若者たちに発表の場や活動できるスペースを考えたいね。また、各地区で行われているお祭りなどにも、どんどん参加して欲しいな。

河野さん 去年行ったフリーマーケットやぶぐまつりは面白かったですよ。興味があります。

雪に強い街

岡本さん 去年は観光キャンペーンの一員として、いろんなイベントを見せられました。やはりまだまだ参加者の年齢層

は高いなと感じました。若者も行ってみたいイベントを増やして、みんなが集まればもっと楽しくなれると思います。

河野さん 私達も敦賀は雪国だと分かって住んでいますが、年々降雪が少なくなるとその意識も薄くなっています。そんな中、今年の大雪は生活道路の除雪、特に「緊急時の場合はどうなるんだらう？」と考えさせられました。

河瀬市長 昔は歩道が空いている程度で当たり前だった。除雪も近所の人たちと分担し合っていた。しかし、今は車も増え、

道は圧雪でカチカチになり、また、違法駐車なども重なり、除雪はなかなかかどりません。除雪に携わっている人たちはそれこそ不眠不休でがんばってくれているんですよ。一方では、ある程度我慢もお願いしたいと思っています。ただ、人命は最優先されなければなりません。市でも今回の経験を活かし、細い路地への対策（重機が入りにくい場所への融雪装置など）も検討していきます。

自分の関わり

よしかわみほ
吉川美穂さん（敦賀短期大学生）

岡本さん この先、自分の事より生まれてくる子どもたちを考えると、私もお母さんになって子育てをしなから働くことで、これからの自立する女性のための道づくりに協力でき、

残せていけたらと思っています。

森本さん まず、自分が街づくりに積極的に参加・協力していくことで、後に続く若い人たちの意識が高まっていくことを願っています。

吉川さん 一人では、何も出来ない

と思うけど、まず、町内のイベントなどから参加・協力することで、それが積み重なって街が活気づけば嬉しい。

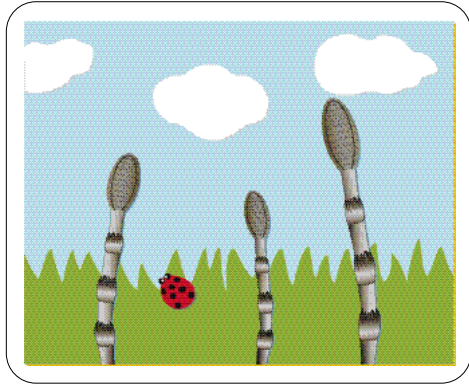
中川さん 病院で勤めていく中で、積極的にみんなが望む環境づくりに関わっていききたい。家庭の中で良い関わりが出来れば、社会でも出ていくだろうと考えたいです。

河野さん 病院だけじゃなく、地域に戻っても医療面で改善していくものはがんばりたい。例えばちっぼけなことからでもがんばれば社会貢献につながっていくと思う。

河瀬市長 私は市長として、今日の君達の思いを含め、若者の意見もどんどん活かしながら、楽しさの中に「ほっとする街、やすらぐ街」を目指してがんばることを約束します。



これからは君達にはいろんな面で協力をお願いしますね。



男女共同参画社会って

なんやの？

「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」へ、そして、21世紀は、一人ひとりを大切に考える世紀へと変革しつつあります。
社会的に作られた性別による「男性は仕事、女性は家庭」といったような固定的な役割分担にとらわれずに、家庭で、地域で、学校や職場でそれぞれの個性と能力を發揮できる多様な生き方のできる社会づくり（男女共同参画社会）を目指す動きが活発になっていきます。



「奥さん！
男女共同参画社会って、
聞いたことある？」

「聞いたことないわ。
なんやの？」

「私も最近知ったの。」



「今までは、男性が政策や方針決定していたでしょう。これからは、女性もそういった場に参画できるようにしたいことなの。」

「ほんとね。」
「敦賀も女性議員さんは居るけど、PTA会長や区長さんは、居ないよね？」

「参画」とは、物事を決める場で決定に至るまでの相談や議論に加わり、自らの意志を表明することをいいます。



「そうやな。」

「奥さん！応援するわ。どっ！」

「そうね。」
「アハハ。」



「小学校では、卒業証書をわたすときなど男女混合になっっているそうよ。」

「そうが、男だから先、女だから後という考えに縛られたくないよね。」



「それからね、子育てや介護も男女がお互いに協力し、役割を果たそうということなの。」

5



「でもね、それは、単に男女で育児を分担したり、女性が男性並みに労働することで問題の解決につながるわけではないと思っわ！」

「ええこと言っわ。21世紀は、働き方や暮らし方が一人ひとりを大切に考えていく時代やね。」

6



「私たちの生活に深く関わる問題よね。」

「そうそう、自分らしく生きて、家族、社会みんなが幸せに暮らせる社会を目指すためにね。」

幸せは、人それぞれであって、決してこれというモデルなどはありません。
しかし、女性だから、男性だからといった理由だけで、したいことが出来なかったり、特定の仕事や役割に片寄っているとしたら...。
男女ともに自分の意志で、社会に参画し、やさしく支え合い、喜びも責任も分かち合える、そんな社会づくりの実現。
そのためには、何よりお互いをいたわり、思いやる心が大切ではないでしょうか。

意識調査 ご意見から

敦賀市にお住まいの満18歳以上の男性50人、女性500人、合計1,000人を無作為(年代ごと)に抽出し、男女共同参画社会についての「ご意見や身近なところの現状など」についてのアンケートをお願いしました。ご協力ありがとうございました。

(回収率58.1%)
全体の集計にはもう少し時間が掛かりますが、自由意見記入欄に寄せられた「ご意見(要約)の一部を紹介します。

50代 女性

性の違いがある以上男性の得意とするところ、女性の得意とすることがあるはず。男性と女性を同じ立場でとらえて、ご意見や身近なところの現状などについてのご意見を聞きたいです。

今女性は、男性社会にどんどん進出しがらばっています。素晴らしいことだと思います。でもその中に居ながら「私は女ですから」という権利だけをしっかりと主張する女性がいま。何かそういう所に矛盾を感じます。

30代 男性

地縁血縁者が近くに居らず、若い母親など孤立しているというのではないのでしょうか。

例えば「おかあちゃんの家」「おとうちゃんの日」を設け、子育てを終えられた方々をボランティアとしてお願いし、相談や雑談の出来る集会所をつくり、地域ぐるみで助け合えたら。このように、敦賀市の現状に合った取り組みを絞って行い、男女共同参画というものを考えることを希望します。

20代 女性

女性が主にやっている育児に対する地方公共団体の助けは必要です。

会社の規模と言っても様々ですし限界があると思います。全ての職種の人が同じサービスを受けるようになるのと良いなと常々考えています。市においても、このような政策を盛んにしていただくのは大変頼もしいと思います。

30代 女性

男女平等が全てにおいて良いこととは思えません。

女性が仕事に出られる環境づくりもいけれど、家庭を持った主婦としては、家庭第一に考えたいと思います。本当に今一番大切なことは何か。みんなが真剣に考えるときではないかと思えます。

50代 男性

基本的には男女同権とは思いますが、男に出来ること、女に出来ることがあり、あまり前面に両方とも考え方を押し出すことはマイナスになるように思う。

今の世の中、女性が強くなりすぎる傾向があり、また、マスコミもそれをあおっている気がする。男女同権は各個人において判断すべき事柄であり、他人、社会が押し付けるものではないと思う。

60代 男性

私のようなシルバード世代では、育児や家事は女性がするものだと教えられました。

しかし、妻が仕事に出るようになったとき、初めて育児や家事を少しずつ手伝い、その経験からお互い協力し合い、尊敬し合うことで家庭というものが一層充実するものだと感じました。

知っていますか？

「男女共同参画社会基本法」

現在、個人の尊重、法の下の平等がうたわれて、いろいろな政策が取り組まれています。大事な意志決定の場に女性が加われなかったり、男女間の不平等を感じたりすることもまだまだ多いようです。

男女共同参画社会基本法は、男女の区別無くそれぞれの個性と能力を發揮できるように社会づくりを行っていくための5本の柱(基本理念)を打ち立てたものです。

来よう、社会の制度や慣行のあり方を考えていきましょう。
【政策等の立案および決定への共同参画】
男女が、社会の対等なパートナーとして、いろいろな方針の決定に参画できるようにしましょう。

【家庭生活における活動と他の活動の両立】
男女は共に家族の構成員。お互いに協力し、社会の支援を受け、家族としての役割を果たしながら、仕事をしたり、学習したり、地域活動をしたり出来るようにしていきます。

【国際的協調】
男女共同参画社会づくりのために、国際社会と共にあゆむことも大切です。他の国々や国際機関とも相互に協力して取り組んでいきましょう。

5つの基本理念

【男女の人権の尊重】

男女個人としての尊厳を重んじましょう。男女の差別を無くし、「男」「女」である以前に一人の人間として能力を發揮できる機会を確保していきましょう。

【社会における制度または慣行についての配慮】
固定的な役割分担意識にとらわれず、男女が様々な活動が出来るよう努めましょう。

ただ今

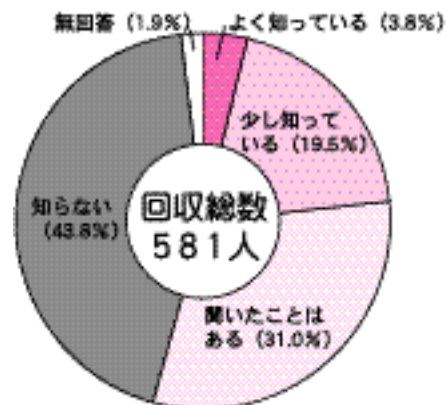
推進プラン

検討中

市では「男女共同参画社会」に向けて、公募委員を含めた男女共同参画推進協議会を設置し、女性の地位向上や職場環境の改善などについて検討しています。

みなさんの意見が反映されるように市民意識調査の結果等を踏まえ、13年度において、生き生きと豊かに暮らすための敦賀らしい「男女共同参画推進プラン」を策定します。

男女共同参画社会づくりに向けて、みなさんのご理解、ご支援をよりしくお願いします。



固定的な役割分担意識にとらわれず、男女が様々な活動が出来るよう努めましょう。



問合せ 男女共同参画室

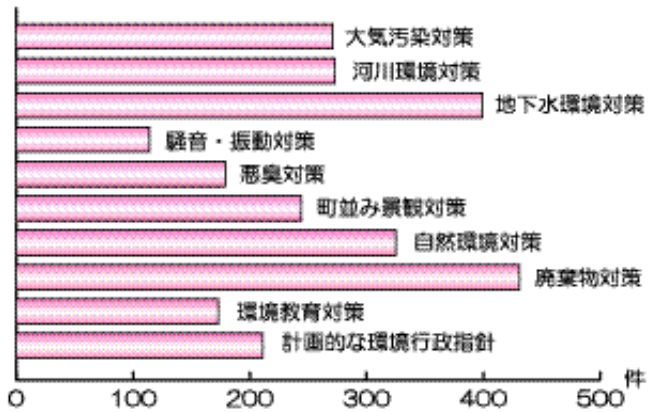
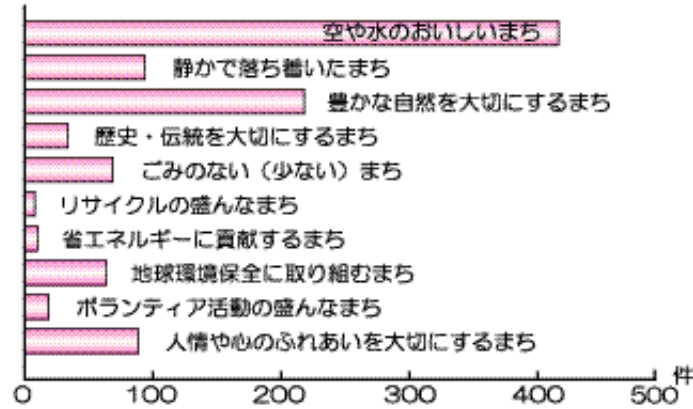
22・8111

2. 将来の敦賀市の環境について

将来の敦賀市の環境イメージ

敦賀市の将来イメージとしては、「空気や水のおいしいまち」を望む意見が最も多くなっています。

「豊かな自然」や「人情や心のふれあい」が次に多く、空気や水を含む豊かな自然環境と人情豊かな人々のふれあいを望んでいることがうかがえます。



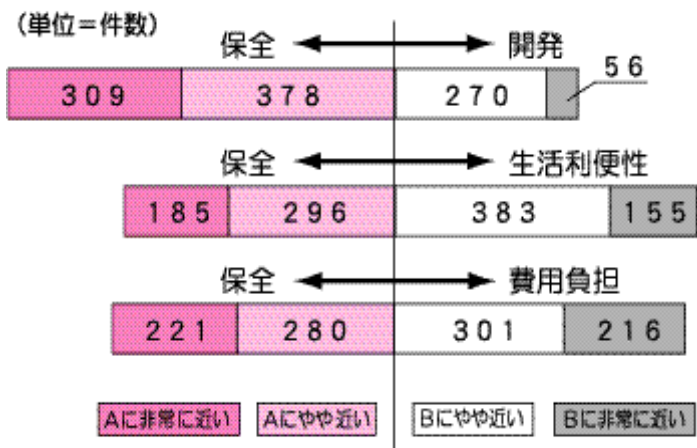
市に進めてほしい環境対策

最も多い意見は「廃棄物対策」で、次いで「地下水対策」となっており、廃棄物による地下水汚染等の不安がうかがえます。

左グラフはそれぞれ選択率の高い10項目を示しています。

環境の保全・創造に対する意識

環境保全に対する意識は高いものの、保全のために生活の利便性を犠牲にしたり、費用を負担することには多少の抵抗感があることがうかがえます。



- < 保全と開発 >
 - A: 開発よりも環境保全に努めるべき
 - B: 市の発展のためにも開発に努めるべき
- < 保全と生活利便性 >
 - A: 環境保全のために生活の利便性を一部あきらめるのは仕方がない
 - B: 環境保全のために生活が不便になるのは避けたい
- < 保全と費用負担 >
 - A: 環境保全のために必要な費用を負担することはやむを得ない
 - B: 環境保全のために費用負担するのは避けたい

どう感じていますか？

環境のこと！



市では現在、「敦賀市環境基本計画」を策定中です。平成12年度は環境に関する各種調査を実施してきました。その一環として市民のみなさんにアンケートに答えていただき、環境に対する意見を広くお伺いしました。

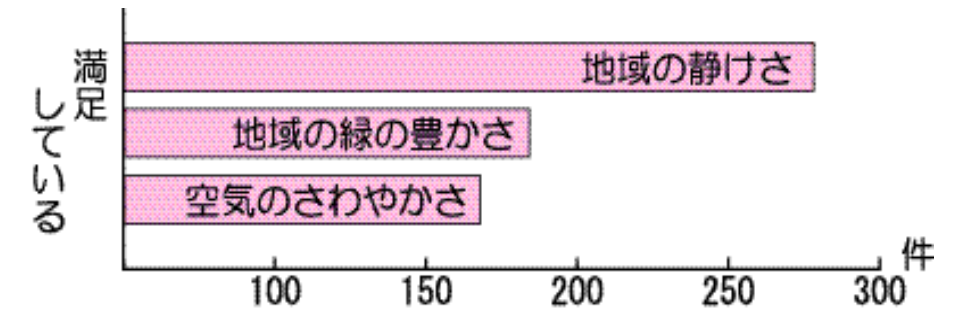
市民アンケート調査結果の概要

配布数2,000人に対して回答数は1,034人、回答率は51.7%でした。

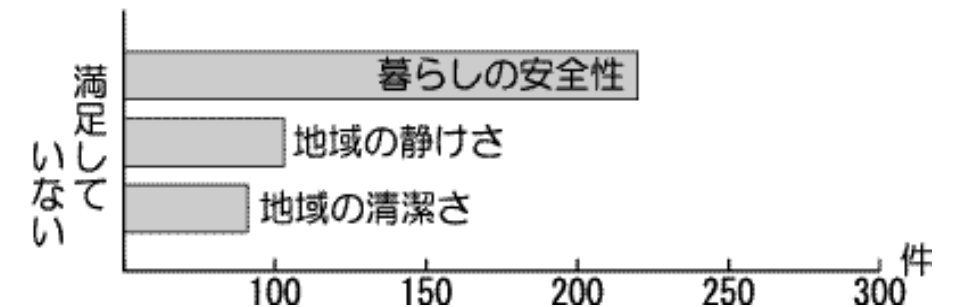
1. お住まいの地区の環境について

地区の環境で最も満足していることは「地域の静けさ」でした。

一方で、満足していないのは「暮らしの安全性」で、安心して暮らせる環境づくりが求められていることがうかがえます。



右グラフはそれぞれ選択率の高い3項目を示しています。



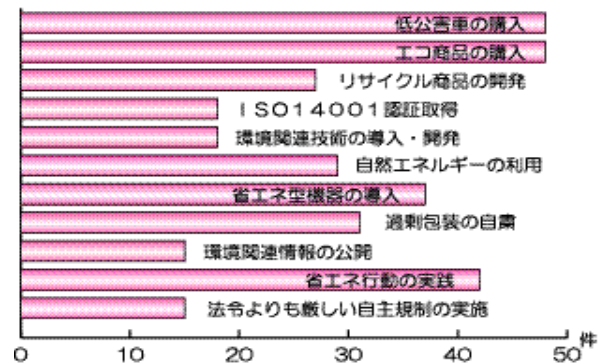
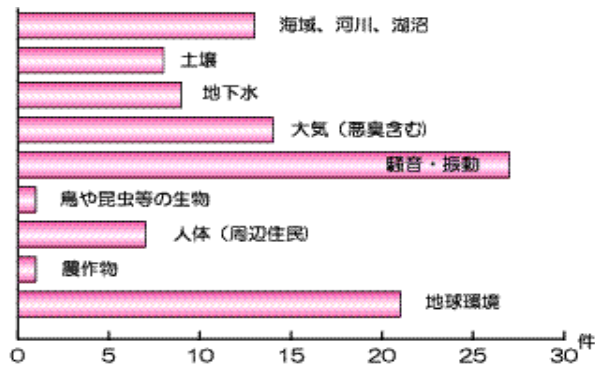
事業者アンケート調査結果の概要

配布数200事業所に対して回答数は124事業所、回答率は62.0%でした。

事業活動と環境への影響について

事業活動が環境に少なからず影響を与えていると回答した事業所は124社中52社(42.0%)でした。

どのような環境に影響を与えているかについては、「騒音・振動」が最も多く、次いで「地球環境」で市民同様、地球環境問題に対する意識の高まりがうかがえます。

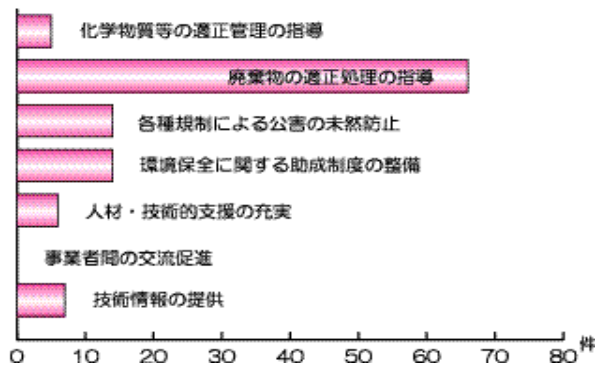


環境保全に向けた取り組みについて

現在、「事業所内での省エネ実践」と「エコ商品の購入」を環境保全の取り組みとして実践する事業所が多い状況です。

将来、取り組む対策では、全般的に選択率が増えており、環境保全への前向きな姿勢がうかがえます。

左グラフは「将来取り組んでいこうと考える対策」です



行政に望む環境対策について

現在の規制や指導に対しては、事業活動にさほど支障にならないという意見が多い状況です。

また、どのような助成・支援制度があるかを知らない事業所が大部分を占めています。

行政に対しては「廃棄物の適正処理」を望む意見が過半数を占めており、市民意識と同様に敦賀市においては「廃棄物対策」に対する要望が強いことがうかがえます。

みんなで考えよう、環境のこと!

このアンケート結果をはじめ各種調査結果をもとに、平成13年度に市民のみなさんに参画いただき、組織する「市民会議(仮称)」で、敦賀にあった環境基本計画を策定していきたいと考えています。

《市民会議(仮称)委員の募集は、広報つるが春二号(4月号)でご案内します》

問合せ 生活環境課 ☎ 22-8121

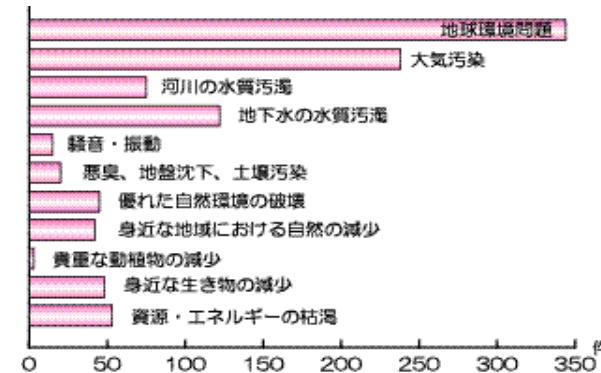
3. 環境に配慮した取り組みについて

日常生活の中で環境に配慮していることについて、選択率が高かった3項目を以下に示します。

各項目とも1番目に選択している事項の選択率が高く、比較的取り組みやすい事項について環境への配慮が進んでいることがうかがえます。

	空気	水	ごみ	省エネ	自然
1番目	家庭でのごみ焼却を控える(61.2%)	水切りネットを使用する(79.8%)	詰替え用の洗剤を使用する(76.5%)	水の無駄使いをしない(59.1%)	ごみを持ち帰る(93.3%)
2番目	家の周りに緑を増やす(44.3%)	洗剤の使用量を控える(32.8%)	牛乳パックやトレーをリサイクルに出す(47.1%)	エアコンの使用を控えたり温度調節等で節電する(47.9%)	生物のすみかを荒らさない(33.7%)
3番目	殺虫剤等の使用量を控える(33.8%)	洗車の回数を減らす(27.7%)	広告紙等の裏面をメモ紙に使う(44.9%)	洗濯はまとめて洗いをする(47.8%)	清掃・美化活動に参加、協力する(33.2%)

()内は回答数1,034に対する選択率を示す



関心のある環境問題

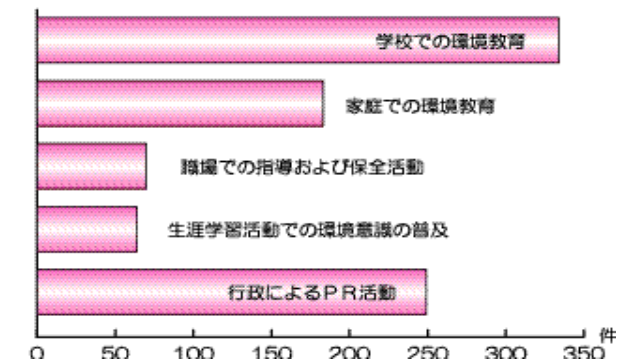
「地球環境問題」に対する関心が最も高くなっており、近年の地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球規模での環境問題の高まりを反映していることがうかがえます。

「大気汚染」「地下水汚染」が次に続き、進めてほしい環境対策でも「地下水保全対策」が上位に上げられていることから、地下水に対する問題意識が高いことがうかがえます。

環境の保全・創造のために取り組むべき事項

「学校での環境教育」が最も多く選択されており、「行政によるPR活動」と「家庭での環境教育」が続いています。

学校や家庭での環境教育が大切と考えているのが5割を占めており、行政と連携した総合的な取り組みが望まれています。



地下水の利用・ごみ排出量

水の利用について、地下水を利用している人は上水道併用を合すると35.1%(回答数363)であり、その内の約半数は「飲料や炊事」に使用しており、地下水が貴重な生活用水として利用されていることがうかがえます。

ごみについて、1週間に出す燃やせるごみの量は、ごみ袋個数にして、1世帯あたり大きい袋2個(回答者の平均家族数3.5人)となっています。

